

山形県

シニア災害ボランティアシンポジウム開催報告

シニア災害ボランティアセミナー

シニア世代のボランティア活動

～あなたができる社会貢献～

平成26年9月27日(土)、山形県の山形県JAビル9階大会議室において、シニア世代のボランティアへの参加に考える機会を設ける目的として、山形県、山形県災害ボランティア支援ネットワーク連絡会、当協会の主催による「シニア災害ボランティアセミナー シニア世代のボランティア活動～あなたができる社会貢献～」が開催されました。

まず、冒頭に、主催者を代表して、山形県高橋広樹企画振興部長、当協会今野和夫事務局長が挨拶し、続いて、株式会社山古志アルパカ村代表取締役青木勝氏による基調講演、



社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会被災地支援コーディネーター村井勢一氏と自然と人間を学ぶ会代表佐藤清道氏による事例発表が行われ、併せて、ボランティア関連6団体による活動内容と交流のためのブース展示が行われました。

講演会の概要は次のとおりです。

基調講演

13:10～14:10

中越大地震から10年 ～山古志は今～



株式会社山古志アルパカ村
代表取締役
青木 勝氏

1 山古志のすがた

震災当時は山古志村、現在は市町村合併により長岡市に編入される。

・山古志の特性

- ①「棚田」(山古志の象徴、総農家数389戸)②「雪」(豪雪地帯であり、平年3mの積雪を記録)③「錦鯉」(錦鯉発祥の地、経営体数・184団体)④「闘牛」(来場者・年間4万人)⑤「中山隧道」(日本一の手掘りトンネル)

2 地震による被害状況

- ・人的被害(死者2名、負傷者26名)
- ・斜面崩壊(地滑り329箇所、水没面積34ha)
- ・生活基盤の被害(上水道が全壊、通信は共同アンテナ12基全滅、ドコモ鉄塔2基損壊)
- ・産業の被害

農業…農地の埋没、流出525箇所

林業…災害(林地28箇所、林道16箇所)

錦鯉…死亡(親鯉2000匹、当才16万匹)、

越冬施設(50棟損壊)

畜産…死亡は成畜88頭、牛舎12棟損壊

住宅被害(約40%の住宅が全壊)

・公共施設等の被害

役場(敷地損壊、設備等被害、小・中学校、

消防施設(防火水槽、消火栓等)

・避難生活(仮設住宅へ562世帯入居)

・豪雪によるさらなる被害(積雪深416cm)

3 山古志復興に向けて

・基本理念「山の暮らし」の再生

山での生き方の復興、働き場の整備を行い、

安全・安心な村の整備。

・安全・安心な暮らしの整備

安心して暮らせる土地と住宅、アクセス道路の確保、ライフラインの復旧、情報基盤

の整備、暮らしを支える公共機能の確保

・山で自立的に暮らしするためのトータルな働き場の整備

棚田での米づくり、錦鯉生産、野菜等の

生産基盤再生、地域産業の連鎖による就労

の場の創出

・山古志の生き方の復興

生涯現役で暮らせる地域社会づくり

(集落自治、闘牛の復活、錦鯉産業の再生)

・新しい山の姿の創造

新しい山の姿は、伝統的な地域での生き方

・山の暮らしの価値

過疎対策等により生活環境は平準化、ト

ータルに暮らす暮らし方（小さな生業の積み重ね）、豊かで安全な山の暮らしを都市に解放

以上のとおり、はじめに山古志村の特性を話され、中越地震による被害状況の紹介がありました。また、山古志復興に向けた考え方や試みについてのお話をいただきました。

その中で、シニア防災ボランティアの延長線上に都市部に住むサラリーマンが定年退職後、40年間に培った能力を地域で活かして活動することが地方活性化につながっていくと話されました。

事例報告1

14:20～14:50

鶴岡市社協の東日本大震災における支援活動とボランティアの動き



社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会被災地支援コーディネーター
村井 勢一氏

1 鶴岡市社協の支援活動の経緯

- ・平成23年3月11日
鶴岡市は、15:00に災害支援本部を設置
- ・平成23年3月12日
ボランティアセンターと学生ボランティアが募金活動を開始
- ・平成23年3月16日
鶴岡市社協は、「災害対策会議」を開きボランティアセンターを窓口にして支援活動を行うことに決定
- ・平成23年3月17日

ボランティアセンターは、震災ボランティアの募集を開始

・平成23年3月17日

鶴岡市は、支援物資の提供を市民に呼びかけ

・平成23年3月21日

南相馬市の養護老人ホーム「高松ホーム」が羽黒国民休暇村に避難してきた。要介護者の手伝いのボランティア活動が始まる。現地でのボランティア活動は、被災地の支援先探しに苦慮したが、人との出会いがそれを解決した。

2 支援活動の内容

- ・募金活動
総額207万151円
 - ・支援物資
石油ストーブ、自転車、使い捨て食器
 - ・避難所のシーツ交換
 - ・石巻市における側溝の泥上げ、がれきの撤去
 - ・各種交流会
 - ・コーディネーター
ボランティアセンターが窓口となり様々なボランティア活動をコーディネート
- #### 3 震災ボランティア
- 鶴岡には、支援活動を希望する人々が数多くいた。宮城県南三陸町や石巻市において、物資の支援、がれきの撤去、避難者支援など延べ2800人が参加した。
- 以上、東日本大震災における鶴岡市社協の支援活動とボランティアへの取り組みと考え方についてお話しになりました。
- その中で、「災害ボランティア活動を通じて

人との出会いの大切さ、心のつながりの大切さを再認識し、達成感や充実感、自己の成長の実感から生きがいづくりにつながっていった」とされました。

事例報告2

14:50～15:20

東日本大震災における身近なボランティア活動



自然と人間を学ぶ会代表
佐藤 清道氏

「自然と人間を学ぶ会」はボランティア活動がメインの会ではないが、女川、石巻、赤湯に出かけて奉仕活動をしたり、福島から避難している方と一緒に農作業をしたり、若いお母さん方の話を聞いたりという活動をしてきた。

この災害においても、自分の命を省みずに崇高な行いをして亡くなった方がおられる。人間は誰もが、そのような精神の崇高さを持つて、生まれてくるということ、一日一回でも自分に語りかける。そういうことが非常に重要だと思っている」と語られました。

- なお、ブース展示による活動内容の発信・交流に参加された団体は次のとおりです。
- ・鶴岡市社会福祉協議会
 - ・自然と人間を考える会
 - ・311ボラミーティング
 - ・復興ボランティア支援センターやまがた
 - ・やまがた絆の架け橋ネットワーク
 - ・山形県（やまがた社会貢献基金）